

## 令和3年度 斜里福祉社会事業報告

### 1. 運営概要

- 新型コロナウイルスの感染状況改善が見通せない中、感染防止対策と経済活動のバランスをどう取るのか、舵取りの難しい状況が続いています。  
加えて、ウクライナ情勢、原油高、円安などに起因する物価高など、生活全般に大きな不安材料となっています。
- このような環境下で、当法人は人材確保策の一環として特定技能外国人の雇用に取り組んできたところですが、入国規制の緩和を受け年度末の3月27日に第一陣9名の入国がようやく実現しひとまず安堵したところ（4月上旬3名が入国）。  
この後、生活上の研修、介護技術等の研修を経て現場に配属となりますが、この町、この法人、利用者様に一日も早く馴染んでいただけるよう支援に努めてまいります。
- さて、当法人の経営は、運転資金の確保などに困難を極めた一年となりました。  
昨年2月からの斜里町議会及び行政に対する資金確保要請行動では、必ずしも納得のいく結果ではありませんでしたが、建設資金補助金の前渡しを受け運転資金の一部を確保することができました。加えて、独立行政法人福祉医療機構からの借入金により令和3年度中の運転資金が確保されたところです。
- 日本人材の確保状況としては、福祉職場説明会への参加、ホームページ及びハローワークなどによる募集活動、人材派遣業者からの紹介を通じた募集を行いました、十分な成果には至りませんでした。
- 法人運営においては、必要な職員数の確保が大前提となりますが、本年度は人材を育成することが重要な課題であったため様々な取り組みを行いました。次年度以降も、職員の定着を目指すためには、労働環境や給与面での処遇改善、職場環境の改善などに取り組む、働く職員が充実感を持てる環境の醸成が不可欠と考えています。
- 令和3年度の決算面においては、損益の指標となる事業活動計算書によると、やすらぎの苑、日の出学園及びワークセンター青葉の各拠点区分における減額が影響し、法人全体でも△7,006千円の減額となりました。また当年度は特養やすらぎの苑拠点区分には斜里町からの緊急経営安定資金補助金が含まれているため、当該額を除くと△57,006千円と大きな実質減となったところです。  
支払資金の指標となる資金収支については、当期資金収支差額で31,537千円余りの増額となっていますが、これについても特養やすらぎの苑の町からの補助金及び独立行政法人福祉医療機構からの借入金、合わせて110,000千円を考慮すると実質では△78,463千円という大きな資金減少となったところです。  
このことは、経営改善の途上にあること、また予定していた特定技能外国人の入国が大幅に遅れ、特養やすらぎの苑の休止ユニットの再開が実現できなかったことが大きな要因となっています。今後も当面は運転資金の更なる確保が不可欠と判断しています。
- 難しいかじ取りを求められた一年でしたが、役職員の努力、関係機関のご理解ご支援を受けながら、令和3年度の事業運営を終えることができました。本格的な安定運営には更に多くの曲折があるものと思われそうですが、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。